

【保護者の方へ：必ず読みましょう】

～ ロタウイルスワクチンの予防接種について ～

対象年齢内は、公費負担（無料）で受けられますが、対象年齢を過ぎると任意接種（有料）となります。期間内にきちんと受けましょう。



令和2年10月1日から、ロタウイルス胃腸炎の重症化を予防するロタウイルスワクチンの定期接種が始まります。

対象者は令和2年8月1日以降に生まれた方（※1）です。

● ロタウイルス胃腸炎とは？

口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。感染力が非常に強く、手洗いや消毒などをしっかりしても、感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもが感染します。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢、嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、最も多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響を及ぼすこともあり注意が必要です。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。

● ワクチンについて

ロタウイルスワクチンは経口接種（口から飲む）で2種類あります。

2種類とも、有効性は同等と考えられていますが接種回数が異なりますので、どちらかを選択し、同じワクチンで決められた回数の接種を行います。

ワクチン名	ロタリックス（1価）	ロタテック（5価）
接種時期	生後6週～24週	生後6週～32週
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
予防効果	どちらのワクチンも有効性は同等と考えられています。 ロタウイルス胃腸炎の発症そのものを7～8割減らし、入院するような重症化を予防できます。	
接種後注意すること	どちらのワクチンも、接種後（特に1～2週間）は腸重積の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

● 腸重積症について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです。

ロタウイルスワクチンの接種に関わらず、乳幼児が罹患することのある疾患で、稀な病気ではありません。0歳児は、月齢が進むと腸重積症にかかりやすくなります。

腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後、早く治療をすれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便がでる

このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。

裏面もお読みください

●ワクチンを接種する前

赤ちゃんのお腹がいっぱいだと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをおすすめします。

なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので再度接種する必要はありません。

(※1)次に該当する方は定期接種の対象外となります。

- *腸重積症の既往歴のあることが明らかな方
- *先天性消化管障害を有する方（その治療が完了した方は除く。）
- *重症複合免疫不全症の所見が認められる方

〈予防接種による健康被害救済制度について〉

定期の予防接種を受けたことが原因で、重い副反応がでて治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。本人またはその家族が市町村に救済の請求をし、厚生労働大臣に認定されると、健康被害の程度に応じて、医療費・医療手当・障害児養育年金・障害年金・死亡一時金・葬祭料の救済措置を受けることができます。

〈お問い合わせ先〉

本部町役場 健康づくり推進課 予防接種担当 TEL 47-5602